

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）  
分担研究報告書

国による自治体の疫学調査支援についての自治体側からの有用性評価手法に関する研究

研究分担者	森永 裕美子	国立保健医療科学院生涯健康研究部
研究分担者	中瀬 克己	岡山大学医療教育統合開発センター
研究分担者	松井 珠乃	国立感染症研究所感染症疫学センター
研究代表者	齋藤 智也	国立保健医療科学院健康危機管理研究部

研究要旨：国立感染症研究所FETPが実施する実地疫学調査支援について、自治体にとってのその支援の有用性の評価は包括的には行われていなかった。本研究では、国と地方自治体の連携体制を評価する試みの一環として、実地疫学調査支援について、その有用性を評価する手法の検討を行い、質問票（案）を作成し、ヒアリングによる試行を行ってその項目の有用性の評価と改善を実施した。

#### A. 研究目的

自治体からの依頼に基づき国立感染症研究所FETPとして年間数事例程度、実地疫学調査支援を行っているが、自治体にとっての、その支援の有用性の評価は包括的には行われていないのが現状である。

厚生労働科学研究 「新興・再興感染症のリスク評価と危機管理機能の確保に関する研究（H28-新興行政一般-002）」においては、新興・再興感染症が侵入した際を想定し、国や地方自治体における対応体制リスク評価（脆弱性評価）を行い、危機管理で確保すべき機能を明らかにするための情報収集等が行われている。

今回は、この研究班の活動の一環として、実地疫学調査支援の枠組みにおける国と地方自治体の連携体制を評価することとした。WHO西太平洋地域事務局が作成したドラフト版のアウトブレイクレビューの手引き（非公開）も参照しながら今年度は、評価手法を確立する目的を主とし、パイロット調査として実施する。

#### B. 研究方法

##### 1. 対象事例の選定

担当者が異動している可能性も考慮し、今年度内に実地疫学調査支援を行った事例のうち当該自治体の協力が得られる事例として、「新興・再興感染症」のコンテクストに近い感染症として、排除が達成された麻しんを第一選択とした。

##### 2. 評価の方法

中立な第三者の調査員（複数人）が赴いて、質問票（案）（添付資料1）を作成し、当該事例に対処した自治体関係者に対して聞き取り調査を実施した。調査員の満たすべき要件は、当該事例の調査・対応に関わりがないこと、行政の仕組みについて十分な知識があること、実地疫学調査の手法について知識があることとした。

##### 3. 留意点

調査結果を公表する際には、当事者の了解をとること、事例や個人を特定されないようにすることとした。

(倫理面への配慮)

本研究は、動物実験の実施を含まない。また、個人情報等を扱う性質のものではなく、特段倫理的配慮を必要とする事項はない。

## C. 研究結果

### 1. 対象事例の選定

条件に合致するアウトブレイクとして、平成28年夏に千葉県松戸保健所管内で発生した麻しんのアウトブレイク (IAS R 37, pp. 234-235, 2016) を選定した。千葉県からは、現時点で2名のFETP研修生の派遣が行われており、現在1名は千葉県衛生研究所感染症学研究室に勤務し、もう1名はFETP研修生である。今回の事例においては、本FETP研修生が、実地疫学調査支援のチームメンバーとして活動を行っていることから、評価対象として選定した。

### 2. 対象事例の概要

本対象事例では、**FETP** は、松戸保健所の保健所長の指示のもと、保健所職員と共に活動を行なった。支援要請の目的は、第一に事例を早期に終息させるための接触者調査の技術・人的支援（保健所スタッフとともに主に B 病院における接触者調査の支援）および地域への感染拡大防止対策、情報提供に関する助言を行なった。

### 3. ヒアリング実施者の選定

研究班の班員より条件に合致する3名（中瀬、森永、齋藤）がヒアリング実施者として参加した。

### 4. ヒアリングの実施

ヒアリングは、平成29年3月17日に松戸保健所にて行われた。ヒアリング対象者として、松戸保健所新玲子所長ほか3名にご協力いただいた。冒頭に齋藤から経緯及び当日のアジェンダに関して説明後、事前に送付した質問票に沿って、ヒアリングを実施した。ヒアリングは2時間かけて行われた。

## 5. 質問票及びヒアリング実施方法への指摘事項

以下の事項が指摘された。

- ・1.1.2は、「どのような技術的支援を受けたか」と質問し、選択肢（複数回答可）を示すべきであった。

- ・技術的支援以外の FETP の有用性（例：保健所職員の心理的負担の軽減等）についての質問も必要

- ・4.1「FETP を要請するきっかけ」は、冒頭の 1.1.1 にて回答を求めることが適切

- ・質問票以外の内容に質問が及び、本来予定されていた質問に答える時間が十分ではなかった。また、新たな質問事項についても時間内に十分な回答ができなかった。

## D. 考察

本事例は、技術的支援、連携において、派遣依頼自治体から FETP は高い評価を受けていた。高評価の背景には、受け入れ側が FETP の業務内容をよく理解していたこと、千葉県から FETP 派遣中の職員の調整により、保健所と FETP が密なコミュニケーションが行えたこと、保健所側の受援のマネジメント（受援方針の明確化による所内調整）が成功していたことが考えられた。特に、業務分担が明確で、保健所職員と業務がバッティングしなかったことが、連携が上手く行った要因と考えられた。

また、**EETP** は、感染研スタッフの管理指導下にあり、スタッフが B 病院への支援、保健所との調整にも加わっていたのも **FETP** が有効に支援できた要因と考える。

一方で、情報共有体制について、より強固なセキュリティ体制の検討を望む声があった。

質問票については、質問の順番等に修正が必要な箇所があったが、概ね有用なフォーマットであると考えられた。ただし、質問票を自記式で利用するか、ヒアリング形式で利用するものであるかの検討が必要であると考えられる。

また、今回のヒアリング事例は受け入れが非常に成功した事例であると考えられるが、そうとは言えなかった事例についても、今後ヒアリングによる有用性評価のさらなる試行が必要である。ヒアリングの実施については、ヒアリングを受ける自治体側の負担を考慮し限られた時間内で効率的に進行することが重要である。質問項目については、極力事前に質問票に盛り込む必要がある。同時に、今回は、評価者はFETPの活動内容について事前に知り得た情報は、事前情報による評価のバイアスを極力避けるためにIASRの報告のみであったが、その他の調査背景について、どの程度事前に情報提供を頂くかについても検討が必要である。

#### E. 結論

国立感染症研究所FETPにより実施した実地疫学調査支援についての自治体側からの有用性評価手法の検討を行い、質問票案を作成し、ヒアリングによる試行と改善を実施することができた。

調査にご協力いただいた松戸保健所新所長、影山課長、古賀主査、小林主任保健師にこの場を借りて感謝を申し上げます。

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

特に無し

##### 2. 実用新案登録

特に無し

##### 3. その他

特に無し

#### 添付資料

##### 1 質問票(案)



## 質問票

### 1 国立感染症研究所 FETP からの保健所に対する技術支援について

#### 1.1 総論

1.1.1 技術的支援は具体的にどのような内容を期待していましたか。

また、なぜその項目の支援要請を行いましたか。

（自由回答）

1.1.2 事例対応における保健所の意思決定において、技術的支援は有用でしたか。

（はい、いいえ）

どのような点で有用でしたか？

#### 1.2 情報整理

1.2.1 情報の整理、資料作成の支援（ラインリスト作成、中間報告用スライド、Q and A）は有用でしたか。

（はい、いいえ）

どのような点で有用でしたか？

#### 1.3 接触者調査

1.3.1 接触者調査の実施に関する技術支援は有用でしたか

（はい、いいえ）

どのような点で有用でしたか？

1.3.2 接触者のリスク評価（リストアップ、対策の優先度、医学的予防的措置（緊急ワクチン接種の対象者の設定等））に関する技術支援は有用でしたか

（はい、いいえ）

どのような点で有用でしたか？

#### 1.4 院内感染対策

1.4.1 院内感染対策の改善に関する技術支援は有用でしたか

（はい、いいえ）

どのような点で有用でしたか？

## 1 国立感染症研究所 FETP からの保健所に対する技術支援について(つづき)

### 1.5 地域の感染対策

1.5.1 地域の感染拡大防止対策（ワクチンキャンペーン等）に関する助言は有用でしたか  
(はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

### 1.6 情報提供・コミュニケーション

1.6.1 地域への情報提供、またその手法に関する助言は有用でしたか (はい、いいえ)  
どのような点で有用でしたか？

1.6.2 リスクコミュニケーション（プレス、HP への公開）に関する助言は有用でしたか  
(はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

### 1.7 長期的対策（行動計画への反映等）

1.7.1 長期的な対策の策定に（院内感染対策マニュアル、ガイドライン）に関する技術支援は  
有用でしたか (はい、いいえ)

どのような点で有用でしたか？

## 2 国立感染症研究所 FETP と保健所との連携について

- 2.1 保健所職員に FETP の役割が十分に伝わっていましたか (はい、いいえ)  
いいえの場合；改善すべき点
- 2.2 FETP の保健所職員とのコミュニケーションはスムーズでしたか (はい、いいえ)  
いいえの場合：改善すべき点
- 2.3 FETP と保健所の情報共有はスムーズでしたか (はい、いいえ)  
いいえの場合：改善すべき点
- 2.4 FETP は保健所の情報管理の規定を遵守できていましたか (はい、いいえ)  
いいえの場合：改善すべき点
- 2.5 FETP は保健所が決めた業務期限を守れていましたか (はい、いいえ)  
いいえの場合：改善すべき点
- 2.6 FETP はチームの一員として機能していましたか (はい、いいえ)  
いいえの場合：改善すべき点

### 3 実地疫学調査派遣に伴う事務的手続きについて

- 3.1 支援要請から支援開始までの時間は満足するものでしたか (はい、いいえ)  
いいえの場合；どれくらいの時間が適切、もしくは許容範囲か
- 3.2 派遣期間は適切でしたか。 (はい、いいえ)  
いいえの場合；長すぎる、短すぎる  
理由
- 3.3 支援要請の手続きや方法はわかりやすかったですか (はい、いいえ)  
いいえの場合；改善すべき点：
- 3.4 支援に必要な書類作業は負担となりましたか (はい、いいえ)  
はいの場合；改善すべき点：
- 3.5 費用負担がありましたか (はい、いいえ)  
はいの場合；どのような費用負担があったか：
- 3.6 支援中のFETPの世話が負担となりましたか。(送迎 etc.) (はい、いいえ)  
はいの場合；どのような点が負担となったか
- 3.7 病院に感染研職員およびFETPを常駐させることについて、病院側との交渉についての問題はありましたか (はい、いいえ)  
はいの場合；どのような点が負担となったか：

#### 4 その他（自由回答）

- 4.1 何が FETP を要請するきっかけになりましたか
- 4.2 支援前と支援後で FETP のイメージは変わりましたか（期待していたが支援がなかったこと、期待はしていなかったが有用であったこと等）（はい、いいえ）  
はいの場合：具体的に
- 4.3 支援を受けたことで、保健所として今後の感染症アウトブレイク対応に生かせる部分がありましたか。（はい、いいえ）  
はいの場合：具体的に
- 4.4 FETP の支援を受けた調査を経験して、次回以降のアウトブレイク対応計画を変更する予定がありますか。変更する場合、どのような点を変更する予定ですか。（はい、いいえ）  
はいの場合：具体的に
- 4.5 中間報告や最終報告のタイミング、報告書の提出期限などについて御意見があればお願い致します。
- 4.6 同じ自治体から派遣されている FETP の存在は有用でしたか。また、どのような点で有用でしたか（はい、いいえ）  
はいの場合：具体的に
- 4.7 今回の FETP による支援事例を経験して、自治体からの FETP 参加（研修プログラムへの派遣）についてより積極的な意図が生まれませんか？
- 4.8 そのほか、支援を依頼して良かった点、悪かった点、改善してほしい点を挙げてください。